



ほんとはすごいぞ、子どもたち



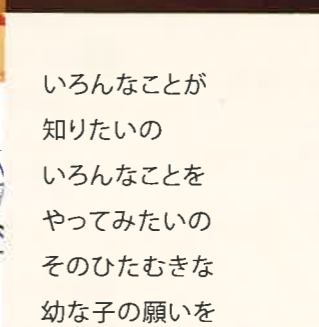
子どもは  
集中力がないなんて  
だれが  
言ったのだろう  
のめり込んだら  
1時間は  
あっという間だ  
その瞳は  
キラキラ輝いている



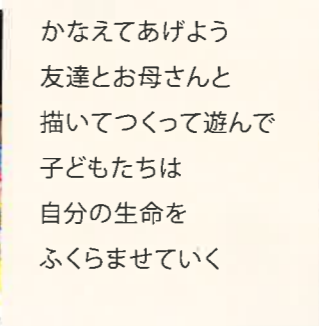
無我夢中体験



子どもは自ら学んでいく



秩序ある世界を知って子どもは自由を獲得する



## アトリエの指導にあたって「自分で!」……この気持ちを大切に育てたい

子どもは遊ぶ中で、生きていくうえで必要な知識や知恵をいつの間にか身につけていきます。身につけるといことは知っていくこと、知っていくことは学んでいくこと。遊びと学びは子どもにとって少しも矛盾することなく一つのことになっています。

学齢期になると、この二つがしだいに対立してくるのは、学びが自発的なものではなくなるからです。強制され、管理され、干渉され、ランクづけをされるので、多くの子ども達が勉強嫌いにさせられていきます。

しかし、新しいことを知りたいという気持ちは人間の根源的な欲求として失われることはありません。これが「発見欲求」。そして、人間は知ったことは自分でやってみようという意欲をもちます。これが「表現欲求」。この発見と表現の欲求が、人間の英知を育て、喜びの毎日を生みだす「創造力」を開発していきます。

創造力は自分でやりたいという自発性があるのはじめて発揮されるものです。“やってみよう”という気持ちを起こさせるためにこの創造共育法は「形」をモチーフにします。

言葉をまだ獲得していない乳児さえ「形」には関心を持ちます。それは見ることができるから、触ることができるから。

五感で外界を吸収しながら発達する人間にとって、この五感すべてを駆使して発見と表現を繰り返せるものは「形ある存在」において他にありません。

共育は、親もアトリエのスタッフも子と共に育つことを意味します。

人間は見えたり、触れたり、聞けたりする現象界から、愛や美や真理を体得しようと成長する生命です。環境を吸収(発見)し、これに働きかけ(創造)ながら洞察を深めていきます。この探究活動を人間は道具と言語を手に入れることによって十分に発揮できる条件をつくりました。

子どもにとっての道具は玩具。アトリエでは、玩具を活動の核にして、子ども達に感性と知性を豊かにもった人間に育ててほしいと願っています。知恵と技によって必然を、感覚と感性によって調和を求める人間は、結局、必然性のある調和された「つながり」、つまり愛と同質の「関係性の原理」をあらゆるところに求めて生きています。

それを無我夢中になって発見し、表現する場が『わくわく創造アトリエ』です。

## 和久洋三のわくわく創造アトリエの特色

1

**テーマ性とストーリー性のある  
関係性を重視した活動を展開します**

アトリエ活動は積み木遊び、造形活動、絵画活動、料理活動と多彩です。そして、その活動は毎回テーマを設けています。導入から完了までコマ切れではない自然な流れを重視していますので、子どもの「集中力」が無理なく持続し、ものづくりの喜びにひたることができます。その中ですべてのものごとの関係性に対する意識を高めます。

3

**少人数体制で子どもの目線にあわせた  
活動をします**

協会本部の指導を受け、認定された講師が指導にあたります。教え込むのではなく子ども1人ひとりの個性や興味により添うために少人数制の、きめこまやかな対応を心がけています。子ども達は自ら学ぼうとする意欲に溢れています。その気持ちを大切にしながら活動を進めていきます。

2

**素材をふんだんに使った活動が  
「創造力」を刺激します**

積み木、専門家用の絵具、粘土、木材など、さまざまな素材をふんだんに使い、スケールアップした空間表現によって、ご家庭や幼稚園・保育園ではなかなか体験できないダイナミックで高度な活動が展開されます。魅力ある素材による発見と表現が子どもたちの底知れぬ創造力をかきたて、大人が目を見はる世界が出現します。

4

**玩具館での30年間の実績が  
息づいています**

玩具館(東京都大田区)では1990年のアトリエ開校以来、すでに数千名の子ども達が通ってきています。30年間で培ったノウハウがWM(和久式)創造共育法として結実していますが、いまでも常に新しい課題を生みだし、子ども達の活動がより多様に発展するよう全国の講師が参集し、常に研鑽を重ねてメソッドを深めています。

**Q & A** よくあるご質問

**Q** アトリエに通うと何ができるようになりますか？

**A** アトリエでは創造力の開発をテーマにしています。  
創造力とは何か芸術的なものを創作する能力だけではなく、何をするにも必要な思う存分自由に「生きる力」だと考えています。自分で考え、行動し、失敗してもまたチャレンジする。「みんな違ってみんないい」そのことを大切にします。

**Q** 画材など準備するものはありますか？

**A** 全てアトリエが用意いたします。  
すべての教材はアトリエで用意しますので、ご家庭でご準備いただくものはありません。  
汚れてもよい服装と、エプロン・三角巾のご準備をお願いいたします。活動前に案内をさせていただきます。

**Q** つくった作品は持ち帰ることができますか？

**A** 個人作品は全てお持ち帰りいただけます。

**Q** 活動中の写真を撮ることはできますか？

**A** 申し訳ございませんが、おことわりしております。  
お子様が集中して活動に取り組むことを何より大切にしているため、ご遠慮いただいております。  
活動終了後の作品等の撮影は自由に行っていただけます。

**Q** 希望のクラスが定員に達している場合、キャンセル待ちに登録することはできますか？

**A** はい、可能です。  
ご希望のクラスに空きがあり次第、先着順に連絡させていただきます。あるいは、別のクラスにご入会頂き、空きが出次第クラスを移動することも可能です。

**Q** 月の途中で入会はできますか？

**A** ご入会は随時可能です。



子ども時代の感動は一生の宝もの



**プロフィール**

和久創造共育普及協会会長  
和久洋三 わくようぞう

1942年、東京に生まれる。東京芸術大学美術学部工芸科工業デザイン卒業。1968年、同大学大学院修了。卒業制作に「遊具」を発表。以後、保育関連会社での開発室勤務、保育園嘱託を経て、童具づくりに専念する。1977年から童具展を各デパートで開催。スイス、フィンランドでも作品が販売される。1982年から1年半の間、スペイン、セビリアで童具の創作と研究に専念。  
現在、童具館館長。「和久洋三のわくわく創造アトリエ」代表をつとめるかたわら、創造教育についての講演、講座活動、美術大学や幼児教育者養成校での指導にあたる。  
著書に『子どもの目が輝くとき』『遊びの創造共育法・全7巻』（ともに玉川大学出版部）『親と子の共育』①②（童具館）などがある。

詳しいお問合せ先は



〒731-5124  
広島県広島市佐伯区皆賀2-2-31  
TEL 090-7547-4676 (担当: 田上)  
E-mail waku.waku.itsukaichi@gmail.com

